PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 11279656 A

(43) Date of publication of application: 12.10.99

(51) Int. CI

C21D 9/48 B21B 3/00 // C22C 38/00 C22C 38/14

C22C 38/16

(21) Application number: 10098199

(22) Date of filing: 27.03.98

(71) Applicant:

NIPPON STEEL CORP

(72) Inventor:

TANAHASHI HIROYUKI YOKOI TATSUO

SENUMA TAKEHIDE

(54) PRODUCTION OF HOT ROLLED STEEL SHEET FOR DEEP DRAWING EXCELLENT IN UNIFORMITY OF SHEET THICKNESS

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To improve the uniformity of the sheet thickness and the (r) value without cold rolling and with high productivity at a low cost by subjecting a steel slab having a specified compsn. composed of C, Si, Mn, P, S, Al, N, Ti, Nb and Fe to specified lubricating hot rolling and thereafter executing recrystallizing treatment.

SOLUTION: The slab of a steel having a compsn. contg. one or more kinds among, by mass, \leq 0.01% C, \leq 2.0%

Si, $\leq 3.0\%$ Mn, $\leq 0.2\%$ P, $\leq 0.05\%$ S, 0.005 to 0.1% Al, $\leq 0.01\%$ N, 0.001 to 0.2% Ti and 0.001 to 0.2% Nb and furthermore contg., at need, 0.0001 to 0.005% B is hot-rolled. At this time, the rolling in at least one pass of the finish rolling is executed at less than the Ar₃ transformation point and at a rolling ratio of $\approx 50\%$ while lubricating oil heated at 30 to $< 80^{\circ}$ C so as to regulate the viscosity at 40° C to < 450 mm²/s is fed at 0.2 to 10 ml/m² by a water injection system. This hot rolled sheet is subjected to recrystallizing treatment in a coiling stage or in an annealing stage to obtain a hot rolled steel sheet for deep drawing excellent in the uniformity of the sheet thickness.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-279656

(43)公開日 平成11年(1999)10月12日

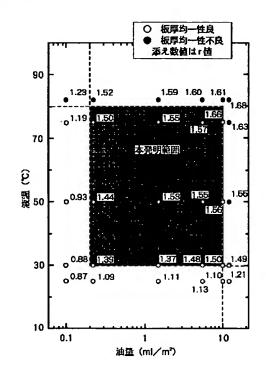
(51) Int.Cl. ⁶		識別記号	FI				
C 2 1 D	9/48		C 2 1 D 9/48	S			
B 2 1 B	3/00		B 2 1 B 3/00	Α			
// C22C	38/00	301	C 2 2 C 38/00	3 0 1 W			
	38/14		38/14				
	38/16		38/16				
			審查請求 未請	求 請求項の数7 FD (全 8 頁)			
(21)出願番4	 身	特願平10-98199	(71)出顧人 0000	06655			
			新日	本製鐵株式会社			
(22)出願日		平成10年(1998) 3月27日	東京都千代田区大手町2丁目6番3号				
			(72)発明者 棚橋	浩之			
			富津	市新富20-1 新日本製鐵株式会社技			
			術開	発本部内			
			(72)発明者 横井	龍雄			
			富津	市新富20-1 新日本製鐵株式会社技			
			術開	発本部内			
			(72)発明者 瀬沼	武秀			
			富津	市新富20-1 新日本製鐵株式会社技			
			術開	発本部内			
			(74)代理人 弁理	士 田中 久喬			

(54) 【発明の名称】 板厚均一性に優れた深絞り用熱延鋼板の製造方法

(57)【要約】

【課題】 板厚均一性に優れた深絞り用熱延鋼板の製造 方法を提供する。

【解決手段】 C:0.01%以下、Ti:0.001~0.2%、Nb:0.001~0.2%の一種または二種を含む鋼の鋳片を熱間圧延する際、仕上圧延の少なくとも1パスを、40℃の粘度が450mm²/s未満の粘性を有する潤滑油を、必要に応じて30℃以上、80℃未満に調整し、ウォーター・インジェクション方式により、必要に応じて噴射圧力を0.05MPa以上、2.0MPa未満に調整して、必要に応じて油量を0.2~10m1/m²に調整して、ロールに供給する潤滑を施しながら、Ar₃変態点未満の温度域で圧延し、かつ、該温度域、該潤滑条件下の圧延の圧延率の合計が50%以上となるように行い、その後、巻き取り工程、または、焼鈍工程において再結晶処理を施す。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 質量%で、C : 0.01%以下、S i:2.0%以下、Mn:3.0%以下、P:0.2 %以下、S : 0. 05%以下、A1:0. 005%以 上、0.1%以下、N:0.01%以下を含有し、か つ、Ti:0.001%以上、0.2%以下、および、 Nb: 0.001%以上、0.2%以下の一種または二 種を含み、残部がFe および不可避不純物から成る鋼の 鋳片を熱間圧延する際、仕上圧延の少なくとも1パス を、40°Cの粘度が450mm³/s未満の粘性を有す る潤滑油であって、その温度を30℃以上、80℃未満 に調整した潤滑油を、ウォーター・インジェクション方 式により0.2~10m1/m'の割合でロールに供給 する潤滑を施しながら、Ar,変態点未満の温度域で圧 延し、かつ、該温度域、該潤滑条件下の圧延の圧延率の 合計が50%以上となるように行い、その後、巻き取り 工程、または、焼鈍工程において再結晶処理を施すこと を特徴とする、板厚均一性に優れた深絞り用熱延鋼板の 製造方法。

1

【請求項2】 質量%で、C : 0.01%以下、S i:2.0%以下、Mn:3.0%以下、P:0.2 %以下、S : 0.05%以下、A1:0.005%以 上、0.1%以下、N:0.01%以下を含有し、か つ、Ti:0.001%以上、0.2%以下、および、 Nb: 0.001%以上、0.2%以下の一種または二 種を含み、残部がFe および不可避不純物から成る鋼の 鋳片を熱間圧延する際、仕上圧延の少なくとも1パス を、40℃の粘度が450mm³/s未満の粘性を有す る潤滑油を、噴射圧力が0.05MPa以上、2.0M Pa未満のウォーター・インジェクション方式により 0. 2~10m1/m'の割合でロールに供給する潤滑 を施しながら、Ar」変態点未満の温度域で圧延し、か つ、該温度域、該潤滑条件下の圧延の圧延率の合計が5 0%以上となるように行い、その後、巻き取り工程、ま たは、焼鈍工程において再結晶処理を施すことを特徴と する、板厚均一性に優れた深絞り用熱延鋼板の製造方 法。

【請求項3】 質量%で、C : 0.01%以下、S i:2.0%以下、Mn:3.0%以下、P:0.2 %以下、S : 0. 05%以下、A1:0. 005%以 40 上、0.1%以下、N:0.01%以下を含有し、か つ、Ti:0.001%以上、0.2%以下、および、 Nb:0.001%以上、0.2%以下の一種または二 種を含み、残部がFe および不可避不純物から成る鋼の 鋳片を熱間圧延する際、仕上圧延の少なくとも1パス を、40℃の粘度が450mm²/s未満の粘性を有す る潤滑油であって、その温度を30℃以上、80℃未満 に調整した潤滑油を、噴射圧力が0.05MPa以上、 2. 0MPa未満のウォーター・インジェクション方式 によりロールに供給する潤滑を施しながら、Ar¸変態 50 延し、更に冷間圧延と再結晶焼鈍を行う方法によって製

点未満の温度域で圧延し、かつ、該温度域、該潤滑条件 下の圧延の圧延率の合計が50%以上となるように行 い、その後、巻き取り工程、または、焼鈍工程において 再結晶処理を施すことを特徴とする、板厚均一性に優れ た深絞り用熱延鋼板の製造方法。

【請求項4】 質量%で、C : 0.01%以下、S i:2.0%以下、Mn:3.0%以下、P:0.2 %以下、S : 0.05%以下、A1:0.005%以 上、0.1%以下、N:0.01%以下を含有し、か 10 つ、Ti:0.001%以上、0.2%以下、および、 Nb: 0.001%以上、0.2%以下の一種または二 種を含み、残部がFeおよび不可避不純物から成る鋼の 鋳片を熱間圧延する際、仕上圧延の少なくとも1パス を、40℃の粘度が450mm¹/s未満の粘性を有す る潤滑油であって、その温度を30℃以上、80℃未満 に調整した潤滑油を、噴射圧力が0.05MPa以上、 2. 0MPa未満のウォーター・インジェクション方式 により0.2~10ml/m2の割合でロールに供給す る潤滑を施しながら、Ar,変態点未満の温度域で圧延 20 し、かつ、該温度域、該潤滑条件下の圧延の圧延率の合 計が50%以上となるように行い、その後、巻き取り工 程、または、焼鈍工程において再結晶処理を施すことを 特徴とする、板厚均一性に優れた深絞り用熱延鋼板の製 造方法。

【請求項5】 鋼が、さらに、質量%で、B : 0.0 001%以上、0.005%以下を含有することを特徴 とする、請求項1ないし請求項4のいずれか1項に記載 の板厚均一性に優れた深絞り用熱延鋼板の製造方法。

【請求項6】 鋼が、さらに、質量%で、Cu:0.0 30 1%以上、1.5%以下を含有することを特徴とする、 請求項1ないし請求項5のいずれか1項に記載の板厚均 一性に優れた深絞り用熱延鋼板の製造方法。

【請求項7】 再結晶処理を溶融亜鉛めっき工程にて行 うことを特徴とする、請求項1ないし請求項6のいずれ か1項に記載の板厚均一性に優れた深絞り用熱延鋼板の 製造方法。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は、特に、電気製品や 自動車などの工業製品の製造分野において有用となり得 る、板厚均一性に優れた深絞り用熱延鋼板の製造方法に 関するものである。

[0002]

【従来の技術】電気製品や自動車などの工業製品には、 深絞り加工された鋼板が広く用いられている。そして、 こうした用途に用いられる鋼板には、高いランクフォー ド値(平均 r値、以下単に「r値」と記す)が求められ るととが知られている。高い Γ 値を有する鋼板は、一般 的には、鋼片を加熱後、Ar₁変態点以上の温度域で圧

造されている。

【0003】しかし、近年、より安価に、こうした高r 値を有する鋼板を得ることを目的に、Ar,変態点以下 の温度域で、潤滑を施しながら熱間圧延を行い、従来工 程における冷間圧延と再結晶焼鈍を省略する製造方法が 提案されている。

【0004】例えば、特開昭59-226149号公報 には、所定の化学成分を有する鋼を、500°C以上Ar ,変態点以下の温度範囲で、潤滑を施しつつ合計圧下率 が50%以上の圧延を行い、その後の冷却、捲取あるい 10 は焼鈍過程において再結晶させることにより成形性のす ぐれた熱延鋼板を得る発明が開示されている。また、特 開昭61-3845号公報には、C≦0.2重量%の炭 素鋼をA r , + 1 0 0 ℃以下、A r , 以上の温度域で、合 計圧下率が少なくとも35%以上の圧延を行った後、摩 擦係数μが0.2以下の条件で合計圧延率が50%以上 の圧延を行い、その後再結晶処理を行うことにより深紋 り性にすぐれた鋼板を得る発明が提案されている。

【0005】しかるに、前者には、単に潤滑を施しつつ かせない具体的な潤滑の実施方法が示されていない。ま た、後者には、摩擦係数を0.2以下にする圧延方法と して、大径ロールの使用、低温・高速・軽圧下圧延、バ ス間冷却などの対策が効果的であるとの開示があるが、 こうした対策は、従来の圧延設備の変更や、生産性の低 下を伴うものであるから、却って製造コストの上昇を招 き、冷間圧延と再結晶焼鈍工程を省略したことによる経 済的な効果が減じられてしまう恐れがある。また潤滑剤 に関する記載は全く見当たらない。

【0006】一方、特開平4-263022号公報に は、所定の化学成分を有する鋼を、Ar₃変態点未満5 00℃以上の温度域で、少なくとも1パスをグリース基 潤滑剤を0.25~5.0g/m'ロールに塗布する潤 滑条件の下で、かつ、Ar₁変態点未満の全圧下率が6 0%以上の仕上げ圧延を行った後、巻取工程またはその 後の焼鈍工程において再結晶処理する深絞り性に優れた 熱延鋼板の製造方法が示され、潤滑剤に関する具体的な 記載がなされている。しかし、グリース基の潤滑剤を用 いるためには、やはり圧延設備の変更が必須であり、製 造コストの上昇は必然的であると言える。

[0007]

【発明が解決しようとする課題】とのように、従来の製 造方法の内の冷間圧延と再結晶焼鈍工程を省略して安価 な製造コストとしながらも、高い Γ 値を有する熱延鋼板 が得られるとする提案には、最も重要な技術要素である 潤滑方法に関する記載が全くないか、あっても設備や生 産性に影響を与えるものであり、より安価に、深絞り性 に優れた鋼板の提供を可能にするという社会的要請に十 分応え得ているとは言い難い。

[0008]また、より高品位な鋼板に対する需要が高 50 備をそのまま使用し、特別に設備改造をすることなく本

まっている状況下において、熱延鋼板を冷延鋼板に換え て用いるためには、 r 値の高さのみではなく、冷延鋼板 と同等の板厚の均一性も求められる。一般に、潤滑を施 しながら熱延を行うと、通板制御の困難さが増すため、 板厚の不均一さも増大し、それが深絞り成形後の製品形 状にも影響を与える懸念が持たれていた。従って、板厚 の均一性を損なわないような潤滑圧延としなければなら ないが、そうした視点にまで踏み込んで熱延鋼板の製造 方法を検討した例は見当たらない。

【0009】そこで、本発明は、まず、従来の熱間圧延 設備と生産性を犠牲にすることなく、従って、冷間圧延 と再結晶焼鈍工程を省略したことによる製造コストの低 減効果を減じるととなく、高い r 値を有し、併せて、冷 延鋼板並みの板厚均一性をも備えた熱延鋼板を製造する 方法を提供することを目的とするものである。

[0010]

【課題を解決するための手段】本発明は、そうした目的 のためになされたものであり、C:0.01%以下、S i:2.0%以下、Mn:3.0%以下、P:0.2% 圧延を行うとの記載があるのみで、実際の鋼板製造に欠 20 以下、S:0.05%以下、A1:0.005%以上、 0. 1%以下、および、N:0.01%以下を含有し、 かつ、Ti:0.001%以上、0.2%以下、およ び、Nb:0.001%以上、0.2%以下、の一種ま たは二種を含み、残部がFe、および、不可避不純物か ら成る鋼の鋳片を熱間圧延する際、仕上圧延の少なくと も1パスを、40°Cの粘度が450mm³/s未満の粘 性を有する潤滑油を、必要に応じて、その温度を30℃ 以上、80℃未満に調整し、ウォーター・インジェクシ ョン方式により、必要に応じてその噴射圧力を0.05 30 MPa以上、2. OMPa未満に調整して、必要に応じ てその油量を0.2~10m1/m'に調整して、ロー ルに供給する潤滑を施しながら、Ar,変態点未満の温 度域で圧延し、かつ、該温度域、該潤滑条件下の圧延の 圧延率の合計が50%以上となるように行い、その後、 巻き取り工程、または、焼鈍工程において再結晶処理を 施すことを特徴とする、板厚均一性に優れた深絞り用熱 延鋼板の製造方法を要旨とするものである。

> 【0011】また、上記の化学成分に加えて、0.00 01%以上、0.005%以下のBを二次加工脆性の改 40 善の目的で、更に、0.01%以上、1.5%以下のC uを高強度化の目的で必要に応じて含有させた鋼板の製 造方法、および、再結晶処理を溶融亜鉛めっき工程にて 行うこととした当該製造方法も要旨とするものである。 [0012]

【発明の実施の形態】本発明者らの調査によれば、一般 的な熱間圧延機にはウォーター・インジェクション方式 の潤滑剤供給装置が装備されていることが多い。本発明 において、用いる潤滑媒体を液体とし、その供給をウォ ーター・インジェクション方式としたのは、そうした設 発明で提案する製造方法を実行可能なものとするためで ある。

【0013】また、望ましい鋼板の化学成分や圧延条件、および、潤滑剤の条件などは以下の実験結果に基づいて限定した。実験は、図4に模式的に示す潤滑剤の供給装置と圧延装置を用いて行った。

【0014】圧延実験に先立って、まず潤滑油の粘度について検討した。潤滑油、および、キャリア水の温度を40℃とし、様々な粘度を有する潤滑油を用いてロールに潤滑剤を連続して噴射し濃度の安定性を調べる実験を10行った。潤滑剤の噴射開始後5分毎に10回、各々100mlをノズル直近で採取して濃度を分析し、10回全てにおいてその変動範囲が設定した濃度の100分の5未満であれば合格として安定性を評価した。その結果、粘度が450mm²/s未満の潤滑油であれば潤滑油の種類によらず濃度の安定性は合格となった。本発明で、用いる潤滑油の粘度を450mm²/s未満としたのは、このように潤滑圧延を安定して行えるものとするためである。なお、粘度の値は、油脂の粘度の表記に汎用的に使用されている40℃の値とした。20

【0015】次に、C:0.0025%、Si:0.01%、Mn:0.10%、P:0.012%、S:0.0095%、Al:0.035%、N:0.0017%、および、Ti:0.062%を含み、残部がFe、および、不可避不純物から成る鋼片を、加熱後、750℃で圧延し、引き続いて、750℃、3時間の再結晶処理をする実験を行った。圧延は、1パスで60%圧延するスケジュールとし、その際に噴射する潤滑剤中の油の濃度、全供給量、温度、および、噴射圧力を変えることにより、潤滑の条件と板厚均一性、および、鋼板 r 値の 30関係を調査した。

[0016] 板厚の均一性は、鋼板 $2500 \,\mathrm{mm}^4$ に付き一ヶ所の割合で $20 \,\mathrm{r}$ 所の板厚を測定し、それらの最大値と最小値の差 Δt をそれらの平均値で除した値が、0.125未満であれば「良」、0.125以上であれば「不良」と判定した。

【0017】その結果を、図1~図3に示す。とれらの図から、被圧延材の単位面積当たりに供給される油量が0.2m1/m²以上、10m1/m²以下、潤滑剤の液温が30℃以上、80℃未満、噴射圧力が0.05MPa以上、2.0MPa未満の場合に、高いr値を有し、かつ、板厚均一性が「良」の鋼板の得られることが明らかとなった。

【0018】 こうした実験結果に基づき、更に鋭意検討を行って本発明を限定した。

【0019】まず、鋼板の化学成分について述べる。 【0020】Cは、深絞り性と密接に関わる元素であり、0.01%を超えると深絞り性を劣化させるので、その上限を0.01%とする。

【0021】Si、Mn、および、Pは各々鋼を高強度 50 高r値鋼板を得る目的からは存在しないが、温度の低下

化する作用を有し、製造しようとする鋼の強度に応じて必要量を添加すればよいが、それぞれ、Si>2.0%、Mn>3.0%、および、P>0.2%となると深絞り性を劣化させるので、Si:2.0%以下、Mn:3.0%以下、P:0.2%以下と上限を限定した。【0022】Sは、少ない程深絞り性には有利であるが、0.05%以下であれば特段問題とならないので0.05%を上限とする。

【0023】A1は、鋼の脱酸、脱窒を目的に添加するものであるが、含有量が0.005%未満ではその効果が得られず、また、0.1%を超えて含有させると延性の劣化をもたらすので、0.005%以上、0.1%以下とする。

【0024】Nは、窒化物の生成や固溶量の増加にともない延性を劣化させるので、0.01%以下としなければならない。

【0025】Tiは、固溶C、および、固溶Nを低減させる働きを有し、r値を高めるのに非常に有効な元素である。しかし、0.001%未満では効果がなく、一20 方、0.2%を超えて含有させてもそれ以上の効果は得られず、鋼のコストを高めてしまう。そのため、含有量を0.001%以上0.2%以下とした。

【0026】Nbは、固溶Cを低減させ、また、仕上げ圧延前の結晶粒径を微細化する働きをするので r 値を高めるのに有効であるが、0.001%未満では効果がなく、0.2%を超えて含有させてもそれ以上の効果は期待できないので、含有量を0.001%以上、0.2%以下とする。

【0027】Bは、二次加工脆性を改善する効果を有するので、必要に応じて添加することができる。しかし、0.0001%未満では効果が得られず、逆に0.005%を超えると深絞り性に悪影響を及ぼすので、含有量は、0.0001%以上、0.005%以下とする。【0028】Cuは、鋼を高強度化する作用を有するので、必要に応じて添加することができる。その効果は、0.01%以上の添加で得られるが、1.5%を超えると深絞り性を劣化させるので、含有量は0.01%以上、1.5%以下とする次に、圧延条件、および、潤滑条件について述べる。

[0029] 熱延鋼板の r 値を高めるには、圧延と再結晶処理工程を利用して集合組織制御を行い、板面に平行な {111} 面を高く集積させる方法が有効である。そのためには、圧延をΑ r ,変態点未満の温度域において行う必要がある。なぜなら、Α r ,変態点以上の温度域における圧延によって形成される集合組織は、その後のγ相からα相への相変態の際にランダム化してしまうため、望ましい集合組織の形成には有効ではないからである。本発明において、圧延温度域をΑ r ,変態点未満としたのはこのためである。一方、圧延温度域の下限は、ア ,を間にないたとは存在しないが、視度の低下

とともに鋼の変形抵抗が増加して圧延機の負荷を増大さ せるため、500℃を下限とするのが望ましい。

【0030】圧延時に潤滑を施こさないと、圧延ロール と被圧延材の間の摩擦に起因する剪断変形により、被圧 延材の、特に表層部に、深絞り性に好ましくない、板面 に平行な {110} 面が形成されてしまうため、潤滑の 実施は不可欠である。なおかつ、既述の実験結果が示す ように、どのような潤滑を行うかが非常に重要である。 【0031】ウォーター・インジェクション方式で潤滑 剤を供給する場合には、潤滑剤中の潤滑油の濃度、潤滑 10 剤の供給量、潤滑剤の温度、および、噴射圧力が主たる 制御指標であるが、詳細な検討の結果、鋼板のr値に影 響を及ぼすような潤滑条件は、濃度と供給量の積によっ て定まる油量、潤滑剤の温度、潤滑剤の噴射圧力の三指 標に集約されることが明らかとなった。

【0032】被圧延材の単位面積当たりの油量が0.2 ml/m²未満であるか、または、液温が30℃未満、 または、噴射圧力が0.05MPa未満、もくしは、 2. OMPa以上では、{110} 面の形成を抑制する 効果が十分ではないため、高r値鋼板を得ることはでき 20 せて記載した。 ない。そこで、油量を0.2m1/m'以上、液温を3 0℃以上、噴射圧力を0.05MPa以上、2.0MP a未満に限定した。

【0033】一方、潤滑効果が高くなり過ぎた場合に は、高r値鋼板を得る目的上は問題ないものの、被圧延 材の通板制御がより難儀になるため、圧延後の鋼板の形 状に悪影響が発生するようになる。具体的には、油量が 10ml/m'を超えて供給されるか、または液温が8 O℃以上となると板厚の均一性が不良となる。そこで、 油量を10m1/m'以下、液温を80℃未満に限定し

【0034】なお、潤滑剤の液温と噴射圧力が r 値に影 響を及ぼすメカニズムは必ずしも明確ではないが、これ らの因子が、潤滑剤中に含まれる油分のロール表面への 膜形成プロセスに強い影響を与えることに起因するもの

【0035】潤滑油の成分は、特に限定しない。鉱油や 合成エステルの他に各種化合物やポリマーなどを添加し た潤滑油を用いることも本発明の要旨を損ねるものでは ない。

【0036】Ara変態点未満の温度域での圧延率の合 計を50%以上としたのは、これより少なくては、板面 に平行な {111} 面が、高r値を得るのに十分な程に 集積しないからである。

【0037】次に、再結晶処理工程について述べる。

【0038】圧延直後の鋼板は、加工組織を呈している ので、加工性を付与するために、さらには、深絞り性に 有利な再結晶集合組織を形成するために、再結晶処理を 行う必要がある。それは、鋼板をコイルに巻き取ること による自己焼鈍法で行ってもよいし、箱型焼鈍炉、ある いは連続焼鈍炉を用いて行ってもよい。また、それらに 換えて、溶融亜鉛めっき工程において行うこともでき る。

[0039]

【実施例】本発明の実施例を比較例と対比して説明す

【 Ò 0 4 0 】試験に用いた鋼片の化学成分を表 1 に示 す。

【0041】鋼板の製造は表1に示す鋼片を、加熱し、 粗圧延した後、ウォーター・インジェクション方式で潤 滑剤をロールに供給しながら仕上げ圧延を行った。その 際の圧延条件と潤滑条件、および、再結晶処理後の鋼板 の板厚均一性の判定結果と r 値を表2~表4 に示す。ま た、これらの表には、本発明の範囲外となる比較例を併

【0042】表1において、鋼A~Hは、本発明の範囲 内の鋼で、そして、鋼IはTi、Nbを含有しておら ず、鋼」はC含有量が0.01%を超えており本発明の 範囲外となっている。

【0043】表2~4においての比較例No. 16、1 7、36、37、56及び57は、鋼の化学成分が本発 明の範囲外の鋼I及びJについての例であり、比較例N o. 2、22及び42は、Ar,変態点未満の温度域で の圧延率の合計が50%以上となっていない圧延条件の 30 例であり、比較例No. 4 は液温が高い例であり、比較 例No. 6及び26は油量(m1/m²)が不足し、比 較例No. 16及び27は油量(m1/m²)が多すぎ る例であり、比較例No. 24及び44は噴射圧力(M Pa)が高い例であり、比較例No. 35は油量及び噴 射圧力の両方が高い例であり、比較例No. 46は液温 が低く、比較例No. 47は液温が高い例であり、そし て比較例No. 55は液温及び噴射圧力の両方が高い例 である。

【0044】とれらの比較例は、いずれも板厚の均一性 評価或は r 値が本発明の実施例よりも劣っていた。

【0045】とのように、本発明の範囲内で製造した熱 延鋼板は、優れた板厚均一性と深絞り性を有することが わかった。

[0046]

【表1】

10 (mass%)

										(n	ass%)	
鐗	С	Si	Min	P	S	A1	N_	Ti	Nb	В	Cu	
Α	0.0020	0.01	0. 25	0.010	0.005	0.045	0.001	0. 040	0.010	1	-	
В	0.0020	0.01	0. 20	0.010	0.005	0.050	0.002	0. 065	-		1	
С	0.0023	0.01	0. 18	0.012	0.006	0.044	0. 001	ı	0. 036	-	•	
D	0.0021	0.01	0. 13	0.011	0.004	0.051	0.002	0.051	0.009	0.0004	-	
E	0.0020	1. 05	1. 20	0. 036	0.006	0.059	0.002	0.050	0.011	0.0030	-	
F	0.0026	1.51	2.00	0. 055	0.007	0.063	0. 001	ı	0.030	0.0019	1	
G	0.0022	0.01	0. 14	0.009	0.005	0. 058	0.001	0.060	1	0.0008	0.3	
Н	0. 0030	1.48	2.06	0.080	0.005	0.064	0. 001	-	0.037	0. 0022	0.9	
I	0.0025	0.01	0. 19	0.014	0.008	0. 039	0.001	-	1	-	1	比較例
J	0.0240	0. 01	0. 24	0.012	0. 024	0.034	0.002	0.054	-	-	-	比較例

[0047]

* *【表2】

No.	鋼	Ar,変態点以下	油量	液温	噴射	板厚	r值	
		の温度域での	(m1/m²)	(℃)	圧力	均一性		
		圧延率(%)			(MPa)	評価		
1	Α	70	1.0	45	1.5	良	1.49	
2	A	40	1.0	45	1.5	良	1. 18	比較例
3	В	70	1.2	50	1.5	良	1.56	
4	В	70	1.2	82	1.5	不良	1. 58	比較例
5	С	70	0.7	60	1.5	良	1.50	
6	С	70	0.1	60	1.5	良	1. 11	比較例
7	С	90	0.9	65	1.5	良	1.51	
8	D	70	0.5	70	1.5	良	1. 52	
9	D	70	0.3	75	1.5	良	1.50	
10	Е	70	2.0	40	1.5	良	1.49	
11	F	70	3. 0	40	1.5	良	1.53	
12	G	70	3. 0	70	1.5	良	1.56	
13	Н	70	1.0	45	1.5	良	1.49	
14	Н	70	6. 0	45	1.5	良	1.54	
15	Н	70	11.0	45	1.5	不良	1. 55	比較例
16	Ī	70	2.0	70	1.5	良	1. 12	比較例
17	J	70	2.0	70	1.5	良	1.06	比較例

[0048]

※ ※【表3】

No.	鋼	Ar。変態点以下	油量	液温	噴射	板厚	r值	
		の温度域での	(m1/m²)	(°C)	圧力	均一性		
		圧延率(%)			(NPa)	評価		
21	Α	70	1.0	50	1.0	良	1.59	
22	Α	40	1. 0	50	1.0	良	1. 18	比較例
23	В	70	1.2	50	1. 2	良	1.66	
24	В	70	1.2	50	2. 1	良	1.17	比較例
25	C	70	0.7	50	0. 75	良	1.60	
26	С	70	0.1	50	0.75	良	1.14	比較例
27	С	90	11.0	50	0.75	不良	1.63	比較例
28	D	70	0.5	50	1.0	良	1.54	
29	D	70	0.3	50	1.8	良	1.55	
30	E	70	2. 0	50	0. 1	良	1. 63	
31	Æ	70	3. 0	50	0.1	良	1.51	
32	G	70	3. 0	50	1.5	良	1.59	
33	Н	70	1.0	50	1.1	良	1. 64	
34	Н	70	6. 0	50	0. 75	良	1.62	
35	Н	70	11.0	50	2. 1	不良	1. 20	比較例
36	1	70	2.0	50	1.2	良	1.12	比較例
97	J	70	2.0	50	1.2	良	1.06	比較例

[0049]

12

11

							_	
No.	鋼	Ar,変態点以下	油量	液温	噴射	板厚	r值	
		の温度域での	(m1/m²)	(°C)	圧力	均一性		
		圧延率(X)			(NPa)	評価		
41	Α	70	1.2	40	0.1	良	1. 58	
42	A	40	1. 2	40	0.1	良	1. 28	比較例
43	В	70	1. 2	50	0. 2	良	1.66	
44	В	70	1. 2	50	2. 1	良	1. 15	比較例
45	С	70	1. 2	75	1.0	良	1.63	
46	С	70	1. 2	22	1.0	良	1.04	比較例
47	С	90	1.2	82	1.0	不良	1.59	比較例
48	D	70	1. 2	55	0.1	良	1. 61	
49	D	70	1. 2	70	1.8	良	1.59	
50	E	70	1.2	55	1.0	良	1. 64	
51	F	70	1. 2	45	0.2	良	1.58	
52	G	70	1.2	35	1.0	良	1.51	
53	Н	70	1. 2	40	1.9	良	1.53	
54	Н	70	1. 2	75	0.3	良	1. 65	
55	H	70	1. 2	82	2. 1	不良	1. 14	比較例
56	I	70	1.2	50	0. 2	良	1. 14	比較例
57	J	70	1.2	50	0.2	良	1.09	比較例

[0050]

【発明の効果】本発明の製造方法を用いれば、板厚均一 20 フである。 性に優れ、かつ、高r値を有する熱延鋼板を得ることが できる。また、そのために新たに潤滑装置を設置したり する必要がなく、冷延・焼鈍工程を省略した効果を減じ ることもない。

【図面の簡単な説明】

【図1】鋼板の板厚均一性、および、r値に及ぼす潤滑 剤中の油量、および、潤滑剤の液温の影響を示すグラフ である。

【図2】鋼板の板厚均一性、および、r値に及ぼす潤滑 剤中の油量、および、潤滑剤の噴射圧力の影響を示すグ 30 7 潤滑油タンク ラフである。

【図3】鋼板の板厚均一性、および、r値に及ぼす潤滑*

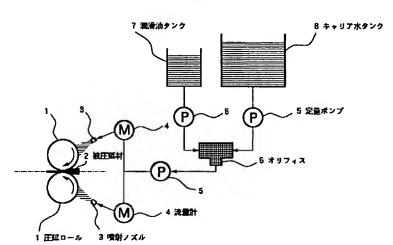
*剤の液温、および、潤滑剤の噴射圧力の影響を示すグラ

【図4】潤滑剤の供給装置と圧延装置を示す模式図であ

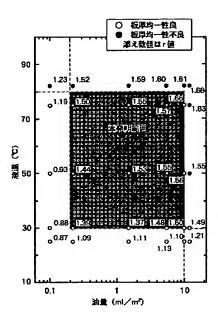
【符号の説明】

- 1 圧延ロール
- 2 被圧延材
- 3 噴射ノズル
- 4 流量計
- 5 定量ポンプ
- 6 オリフィス
- 8 キャリア水タンク

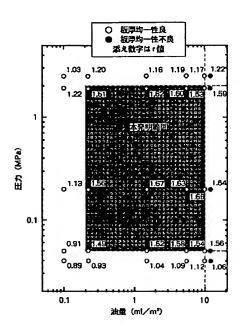
【図4】



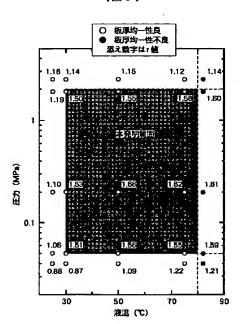




【図2】



【図3】



This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

☐ BLACK BORDERS
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
FADED TEXT OR DRAWING
BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

☐ OTHER:

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.